

未来経営研究会 第1回例会

(株)NTT docomo、(株)日本レーザー視察
代表世話人 郡司 祐一 (株)関東農産 代表取締役)

日時：平成27年6月16日(火)～17日(水)

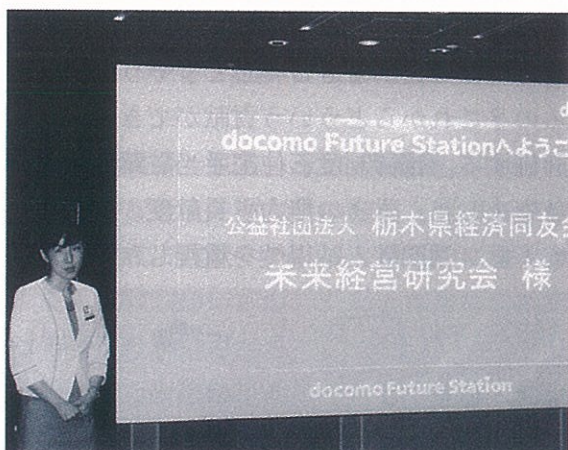
場所：東京都

参加者：23名

「優れたリーダーシップの獲得」～未来を創るリーダーたる人間力向上～を活動テーマとしている当研究会では、第1回例会として(株)NTT docomoと(株)日本レーザーの視察を行った。多くの学びとともに、未来経営研究会のサブテーマである「会員同士の親睦」も図ることができ、有意義な2日間であった。

【(株)NTT docomo視察】

世話人である菊池 太志氏 (前(株)ドコモCS 栃木支店 支店長)のご尽力により、山王パークタワー (溜池山王)にある(株)NTT docomoの本社を視察した。



受付前でのお出迎えを受けた後、「ソリューションルーム」「フューチャーステーション」という2種類のショールームにそれぞれ2班に分かれて見学をした。

「ソリューションルーム」では、まず、音波を使ったチェックインソリューション『Air Stamp』を体感した。音波技術によるチェックイン機能をオープン化し、自社店舗における独自のポイントサービスやクーポン



配信サービス、イベント会場での情報発信などが可能となるとのことで、現在、『JR東日本アプリ』として車両の停車駅案内や各号車の乗車率をリアルタイムに確認できるシステムが、実際に配信サービスされているとのことだった。

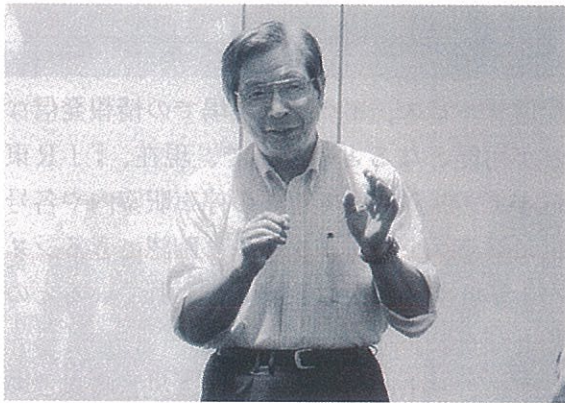
次に、Biz安否確認では、災害時などの緊急時に社員の安否確認メッセージを配信し、回答結果を収集・集計するサービスであり、社内連絡などの通常業務でも利用可能とのことであった。

「フューチャーステーション」では、『ドコモが描く未来、その発信拠点』として未来の技術を体験でき、シアターでは、ドコモが描く2020年の未来ビジョンのプレゼンテーションが3D映像を用いて行われ、同時通訳サービスを使い世界中の複数の人たちと同時にコミュニケーションをとったり着物の柄をデザインする等が出来る様子を、特殊メガネを装着したバーチャル体験で楽しんだ。



【㈱日本レーザー視察】

㈱日本レーザーは、第1回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞で中小企業庁長官賞を受賞され、数多くメディアにも取り上げられる有名会社である。同社の近藤宣之社長に“夢と志”「債務超過からM E B Oで独立」〈社員第一主義の経営〉について講話頂いた。



～会社概要～

レーザー専門商社の草分けとして1968年設立。従業員約60人。売上高約40億円。

2007年M E B O（経営陣と従業員が一体となって行うM&A）により親会社から独立。



～ビジネスモデル～

21年間連続黒字の最大の理由。我々は売りたいものを売っているのではなく、お客様が欲しいと思うものを売っている。卸売業とか輸入商社は、必ず付加価値を付ける（サービスや開発助言、インテグレーションなど）。どんな状況（円安等）になっても利益を上げるビジネスモデルを構築するのは社長の責任である。

～社員第一主義～

上場しようとか考えているのではなく、この会社で働けて幸せだ、自分が成長出来る、自己実現ができる会社を目指している。顧客満足第一ではなく、社員第一主義である。社員が満足できないのに顧客を満足させることは出来ない。雇用不安がない、永続して安心できる、能力を発揮できる環境等が重要で、当社は社員が23年間1人も辞めたことがない。



～ダイバーシティ経営～

従来の国籍とか性別とか学歴とかで決めていたら、フェアな待遇ができない。だから、今あなたは何かできるの？どういう能力があるの？これからどういう貢献ができるの？で評価する。定昇制度、住宅手当、年功序列等は廃止した。本人の能力、貢献度、成果を基準とし、透明性と納得性を重視した。



～最後に～

限られた時間であったが、経営に携わる参加者の心に響くとともに、今後の経営にも大いにプラスとなる非常に有意義な視察となった。